

6) - 9 都市の魅力と賑わい・活気の増進に資する街路等のデザインに関する研究【持続可能】

Study on the design of streets etc. that contribute to the promotion of urban attractiveness, liveliness and vibrance.

(研究開発期間 令和3年度)

住宅・都市研究グループ 富田 興二
Dept. of Housing and Urban Planning TOMITA Kohji

Literature review and research development was conducted on existing knowledge of science and lore, etc. from Vitruvius “The Ten Books on Architecture” to the present, which describes principles and theories of the shape, dimensions, human activity, and other aspects of Street Design / Urban Design. Intermediate products included a full translation of Hermann Maertens (1884), which had not been translated into Japanese before.

【研究開発の目的及び経過】

国土交通省では、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指し、警察庁とも連携しつつ、各般の取り組みが進められている。富田が企画し都市局が開催した「プレイスメイキングシンポジウム 2014」(注1)以降、令和2年になってからは特に新型コロナウイルス対策としても、歩行者中心の街路空間への関心が高まっている。(図1)

これまで、これらの施策に関連する都市計画・景観等の法制手続き・住民参加等に関する調査研究・社会実装は多数行われ、また、写真集・事例集・啓発書等が多数作られてきているところである。しかし、具体的計画設計の根拠となる形状・寸法等やその原理・理論等に関する調査研究・社会実装への関心は低く、まとまった専門書等が無く、専門教育を受ける機会も乏しく、専門家の育成も困難な状況が続いている。関係者が解像度の低い知見と成功例の乏しい経験則等に依存し、街路・広場等が閑散・殺風景になってしまったという愁訴が多数散見され、工学的再現性の改善が喫緊の課題となっている。

そこで本研究では、「都市空間の魅力の増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出)」に関する既往知見のうち、近年特に政策ニーズの高い、アーバンデザイン・ストリートデザイン(街路等歩行空間デザイン)の原理・理論等について、技術資料(案)等の研究開発等を行った。

平成29年平成31年(2019年)の街路構造令100年を前に制度改正の機運。国土交通省等から富田に相談
令和元年6月「「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生」の推進について、「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」から石井啓一国土交通大臣に提言。大臣から「ウォークアブル都市」推進の指示
令和2年3月「ストリートデザインガイドライン Ver.1.0」(都市局・道路局)通知、「まちなかの居心地の良さを測る指標

(案)「都市局まちづくり推進課」公表

令和2年5月20日 歩行者利便増進道路(ほこみち)の指定制度など、道路の安全と効果的な利用のための新しい制度を創設する道路法等一部改正(成立、令和2年5月27日(公布)、令和2年11月25日(施行))
令和2年6月3日「安全なまちづくり」及び「魅力的なまちづくり」の推進を柱とする都市再生法等一部改正(成立、令和2年6月10日(公布)、令和2年9月7日(一部内容が施行))
令和2年6月5日 飲食店などが路上を占用する際の許可基準を特例で緩和(～11月)
令和2年6月18日 社会資本整備審議会道路分科会基本政策部会の提言として、道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」が大臣に手交
令和2年10月22日 赤羽一嘉国土交通相・河野太郎行政改革担当相・平井卓也デジタル改革担当相が会談し、11月下旬をめどに新制度を設け、11月末までだった特例を恒久化することで一致(23日報道)
令和2年11月10日 令和3年3月31日まで路上占用特例を延長
令和3年3月12日 令和3年9月30日まで路上占用特例を再延長
令和3年3月26日「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出に向けて、「関係省庁支援チーム」第1回会議を開催
令和3年4月27日 道路局「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会(第4回)、多様なニーズに応える道路ガイドライン(案)概要が示され、年度内のガイドライン策定と令和4年度以降の新たな基準や制度の創設と全国展開のスケジュールが提示
令和3年5月12日「ストリートデザインガイドライン Ver.2.0」(都市局・道路局)公表
令和3年9月10日 令和4年3月31日まで路上占用特例を再延長
令和4年3月11日 令和4年9月30日まで路上占用特例を再延長
令和4年3月30日 道路局「多様なニーズに応える道路ガイドライン」(道路局)公表

図1 ストリートデザイン等に係る近年の主な施策動向
(下線部等には、企画提案・概念整理・逐次資料提供などの技術支援を実施)

【研究開発の内容】

ウィトルウィウス『建築書』から現在までの科学・伝

承等の既往知見のうち、「街路等のデザイン」の「形状」「寸法」「人間のアクティビティ(快情動表出等)」等の原理・理論等について記載のある文献等(注2)を対象として、文献レビューと研究開発を行った。また、中間生成物として、H.メルテンス(1884)の邦訳(注3)等を行なった。

- (1) 知見自体と技術資料等の精査・深化
 - ・ 既往知見の分類・整理、資料の執筆・コンパクト化等
 - ・ 文献資料のドリルダウンと、未入手資料の調査・収集整理
 - ・ 主要な未邦訳文献のレビューと邦訳
- (2) 技術資料等の普及啓発・研修・人材育成・事例創出
 - ・ 学識者・実務者等サウンディング
 - ・ 建築研究開発コンソーシアムの場の活用
 - ・ 講演依頼・事業相談等への対応
- (3) 国内外の社会実装方策に関する調査
 - ・ 施策動向の把握

【研究開発の結果】

- ・ レビュー・翻訳・ドリルダウン等により、現象やメカニズムの解明に資する新たな模式図の作成等、研究成果のブラッシュアップを一定に進めた。
- ・ 効果分析手法素案を考案するとともに、資料写真撮影等の一部を実施した。また、前年度までの資料案等を用い、サウンディングと資料収集整理の一部を実施した。
- ・ 日本建築学会 建築のスクラップアンドビルドと保存・活用に関する特別調査委員会、建築研究開発コンソーシアム研究会等に参加し、機会を捉え普及啓発も試み、サウンディングの機会にもした。
- ・ 中間生成物として、H.メルテンス(1884)の試訳(第2・3部)を行なった。これにより、過年度の試訳と合わせ全訳を完成させた(本邦初)。その他、ストリートデザイン・アーバンデザインに係るロンドン、エセックス、ニューヨークにおける技術資料・各種論文等の多数の資料の収集整理と邦訳を行なった。これらの一部について建築研究所図書館等への納本の検討を進めた。
- ・ 道路局検討会委員、千葉市、渋谷区内団体役員等からの相談に対応した。
- ・ 「リノベーションまちづくりと政府等の動向」「新型コロナウイルス感染症対策」「ストーリーデザインガイドラインやフランス、飲食店の営業規制緩和」「再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォース、脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」等について、グループ内等に情報共有した。なお、これらの成果は、既に都市再生法改正案・ストリートデザインガイドライン等の企画立案に資する基礎資

料として活用されている。技術資料等として今後取りまとめ、一層の普及啓発とブラッシュアップを図る。

【注】

- 1) www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000056.html
- 2) カミロ・ジッテ(1889)『広場の造形』、ヨセフ・スチュッベン(1890)『Der Städtebau』、レイモンド・アンウィン(1909)『TOWN PLANNING IN PRACTICE』、シルビア・クロー(1960)『道路と景観』、ゴードン・カレン(1961)『都市の景観』、芦原義信(1962)『外部空間の構成/建築から都市へ』、ジョン・F・フルーイン(1971)『歩行者の空間 理論とデザイン』、ボリス・S・プシュカレフ、ジェフリー・M・ジュパン(1975)『歩行者のための都市空間』、樋口忠彦(1975)『景観の構造』、クリストファー・アレグザンダー 他(1977)『パタン・ランゲージ』、イアン・ベントレイ 他(1985)『感応する環境』、篠原修・北原理雄・加藤源 他(2007)『公共空間の活用と賑わいまちづくり オープンカフェ/朝市/屋台/イベント』、三浦展・渡和由研究室(2007)『楽しい街の50の秘密 吉祥寺スタイル』、道路環境研究所(2008)『堀繁講話集 景観からの道づくり 基礎から学ぶ道路景観の理論と実践』、ヤン・ゲール(2010)『人間の街』、鈴木俊治(2019)『Great Urban Places in Asia』、デビッド・シム(2019)『ソフトシティ』等とそれらの参考文献など
- 3) ヘルマン・メルテンス(1884)『視力の尺度 視覚芸術における視覚的美しさの理論と実践、第2版』(2022年 富田興二 訳)。底本は Hermann Maertens(1884) Der Optische Massstab oder die Theorie und Praxis des ästhetischen Sehens in den bildenden Künsten. 2 (東京大学農学生命科学図書館所蔵)

【参考文献】

- 1) 日本建築学会 建築のスクラップアンドビルドと保存・活用に関する特別調査委員会(2021) 日本建築学会大会パネルディスカッション「建築のスクラップアンドビルドと保存・活用のバランスをどう創り出すか」
- 2) 日本建築学会建築のスクラップアンドビルドと保存・活用に関する特別調査委員会(2022) 建築のスクラップアンドビルドと保存・活用報告書
- 3) Transport of London(2012) Pedestrian Comfort Guidance for London
- 4) Essex County Council(2018) ESSEX DESIGN GUIDE (www.essexdesignguide.co.uk)
- 5) New York City, Department of Transportation(2009) Street Design Manual(2013, 2020年改訂)

令和3年度以前の研究開発課題名：

都市空間の魅力の増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出)に関する基礎的研究(平成29~30年度)